

悩まなくてもだいじょうぶ



知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子



イラスト／清水直子

第17回

春は「眼」の症状悪化に注意

❁ わが子は「春季カタル」で

失明の一步手前に

花粉症のシーズンがやってきました。今回は花粉の影響でも眼の症状についてお伝えしたいと思います。残念なことに、私が10年余り相談活動を続ける中で、眼アレルギーを適切に治療しなかったために失明した方、7人に出会いました。

実は私の息子も、失明の一步手前まで悪化したことがありました。小学校に入学したころ、当時まだ専門医に出会えず、喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、鼻炎・結膜炎に苦しんでいたわが子は、とりわけ眼の症状が悪化していました。朝目覚めると黄色い目やにがガチガチに固まってまぶたを塞ぎ、目を開け

られません。点眼薬をさして柔らかくした目やにを取り除くと、干からび血走った目で、「痒いよ！ 痛いよ！ カーテン閉めて！ 眩しくして目が開けられない！」と目をこすり続けました。それでも唇近くになると少し楽になるため、何とか頑張って学校へ。ところが晴天の日は眩しくて目を開けられず、花壇や階段

につまずいて転んでしまつこともしばしばでした。そんな状態の中でようやく出会った眼アレルギーの専門医から、「まぶたの内側がひどいアトピー状態で、手のこぶしで強くこすったために瞳が傷つき、失明寸前」と言われたのです。

重症のアレルギー性結膜炎である春季カタルでは、まぶたの裏側がまるでゴツゴツした岩山のような状態

になつてしまいます。スギ花粉が陽性の人は花粉の飛散期に春季カタルも悪化します。そんな症状で、痒いから強くこすつて瞳を傷つける、あるいは眼をたたく続けて網膜はく離を起し、失明してしまつのです。

❁ 早期の治療開始が

重症化させないポイント

そうならないためにも、専門医は春季カタルの治療はもちろん、花粉のトップシーズンには花粉めがねやマスクなどで花粉を避けるだけでなく、花粉が飛び始める2週間くらい前から治療を始めることで症状を抑えるよう指導しています。幸いなこ

とにわが子は、専門医による適切な治療で失明をまぬがれ、視力も1.2まで回復することができました。



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。